

アメリカ研修 5 日目の報告でございます。

本日も午前は語学学校の授業でスタート。昨日見つけた課題や反省点、生徒によっては悔しさを胸に、授業へと向かいます。昨日の報告書と同様ですが生徒たちからは、語彙力を増やしたい、他国生が発言する中、失敗を恐れて発言ができなかったの何とかなしたい、昨日よりは理解できるように何とかくらいつきたい…。今日は少しでも改善できるよう、また発言できるようにと意思をもってクラスに臨んでいたようです。提出いただいているしおり（日記）にも、課題に対する前向きな言葉が並びます。

授業後にはクラスメートと一緒にランチに出かける生徒の姿も少数ですがあり、頑張っている様子がかがしいれました。もちろん「勇気を出して誘ってみたけど、今日は別の予定があるから」と断られてしまったという報告も。でもその報告をしてくれた生徒も心なしか笑顔で、一歩踏み出せたことへの達成感もあったようです。明日またチャレンジをしてみるということだったので、ぜひ頑張っていたきたいと思います。

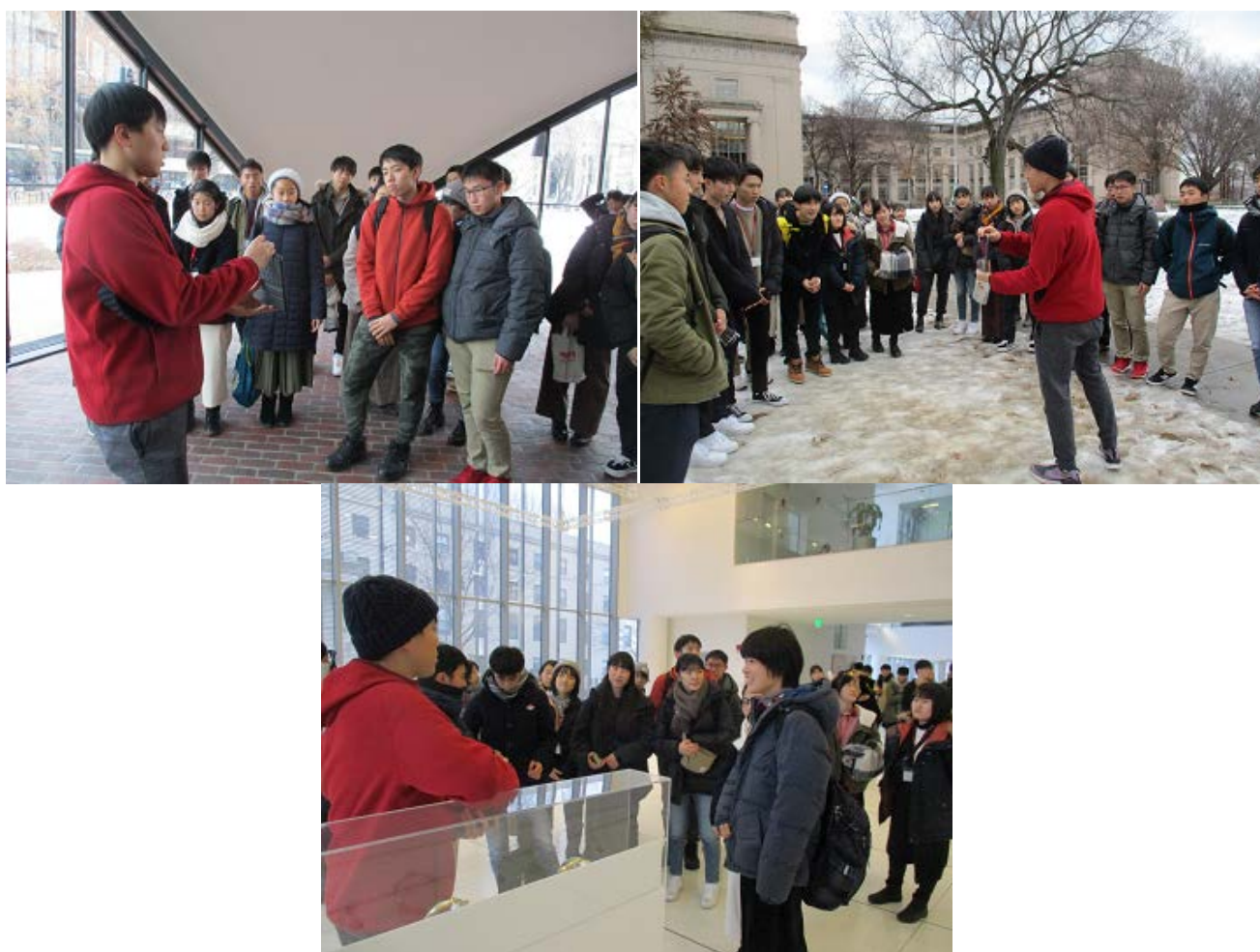


授業の様子です

そして午後は MI T（マサチューセッツ工科大学）の大学院で化学生命工学を専攻、研究されている吉永宏佑氏にキャンパスツアーをしていただきました。まずは大講堂 Kresge Auditorium 前でお話しがス

タート、大講堂内部には入れないためわざわざお持ちいただいた iPad で内部の写真をを見せていただきながら説明いただきました。その後、その名前から理系分野が有名な MIT ですが、実は文系の学部も豊富にあるしその分野でも高く評価されているということで、文系各学部の紹介が掲示されているエリアにお連れいただいたり、MIT といえばのグレートドーム、また日本人も活躍するメディアラボ等、最先端のキャンパス・研究施設をご案内いただきました。特に生徒たちには MIT 名物の学生による「いたずら (HACK)」(例、グレートドームの上にパトカーを置いた・ビルを使いテトリスを行った、給水機の横に消火栓が設置された等) が興味深かったようで、真剣に、そしてその規模の大きないたずらに笑顔で耳を傾けていました。

そしてこの後、空き教室で質疑応答の時間となりました。生徒からは、「日米の違い」、「留学当初英語はどうであったか」、「授業スタイルは」、「留学の費用をどう工面したか」等の質問が出ました。授業スタイルや日米の違いに関しては、少人数のクラスが多く、がちがちの授業プランが決められているというよりは、学生がわからないところにフォーカスをしていくスタイルで、答えのない質問が多く、自分の考え・意見が求められる授業であるということ、そしてこのお話から「発言しないのは存在していないのと同じ」ということをこちらでは聞くことがあり、積極的に授業中も意見を伝えるようになったという吉永氏の経験談には、特に語学学校でまだ行動(発言)を躊躇っていたり、恐れていた生徒にはきっと響いたものと思います。



キャンパス見学



グレートドーム前で

ただ残念ながら、発言・質問、また先頭付近を陣取る生徒には偏りが出ています。そのため解散時には、アメリカにすれば何とかなる（＝変わる・成長する）のではなく、結局は何とかするのは自分自身であるということ。そのためのきっかけであったり、チャンスだったりはあるので、残りわずかな研修期間、ぜひ全てを出しきってほしいということをお伝えしました。

以上、5日目の報告とさせていただきます。